



タニシとカワニナはどうちがうの

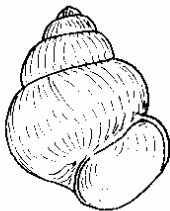
殻が細長いのがカワニナ

タニシとカワニナは、殻が黒色で細長いのがカワニナ、と思えば見分けやすいでしょう。タニシの仲間には、ヒメタニシ、マルタニシ、オオタニシなどがいます。小さいヒメタニシは殻の高さ3.5センチメートル、太さ2.3センチメートル、ほかのタニシは高さが6センチメートル、太さ4.5センチメートルぐらいです。カワニナは、殻の高さ3センチメートル、太さ1.2センチメートル、オオカワニナだと、殻の高さ5センチメートル、太さ2センチメートルというように、タニシに比べて殻が細いのがわかります。

タニシとカワニナのちがい

タニシもカワニナも、卵がメスの体内でかえり、子貝になって生まれてきます（卵たい生）。でも、タニシの産む子貝の数は30～40ぴきですが、カワニナは300～400ぴきにもなります。タニシは、田んぼやぬま、池などのどろの中でくらし、どろの上の小さい有機物（植物や動物が分解されたもの）を食べています。

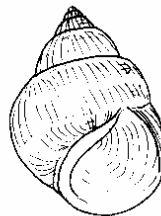
カワニナは、池や小川や下水などの流れる水の底にすみ、雑食性です。いろいろな物が流れてくる洗い場などの近くに、群になってすんでいます。カワニナは、ホタルの幼虫が大好きなえさとして知られていて、ホタルをふやすために、カワニナをふやそうという計画があちこちですすんでいます。（監修・安部 義孝）



マルタニシ



ヒメタニシ



オオタニシ



カワニナ

